



右/現場全景。全146戸の集合住宅は来年の3月に完成予定だ。
左/進捗状況を確認してまわる際は「報・連・相」だけでなく、一人ひとりと会話することを意識している岩崎。

私の
職場
komachi's
point

輝
け!

けんせつ小町

現場監督

岩崎夕佳

㈱長谷工コーポレーション
建設部門 第二施工統括部



「けんせつ小町」は、日建連が定めた建設業で活躍する女性の愛称です。

運動公園や学校もあり緑溢れる閑静な邸宅街の埼玉県浦和区駒場。その一角に事業企画から設計、施工、販売、管理まで女性社員が中心となり計画を進める集合住宅の現場がある。今号では、その現場の次席を若くして任され、職人や職員をまとめながら活躍している現場監督取材した。

建設現場で鳥肌が立つ

岩崎夕佳は一九八八（昭和六十三）年、東京都生まれ。物心がついた頃から祖父の道具箱の中にあるのこぎりやトンカチを使うことが好きだった。

「小学生の時には、犬小屋をつくりました！部品を切り出すところからはじめて、組み立て、ペンキ塗りまですべて自分でやっただけです（笑）」
その後ものづくりにかける情熱は変わらず、時間があれば何かをつくる日々が続いた。ある日、そんな姿を見守っていた父から何気なく建築という仕事を勧められた。岩崎が中学二年生の時である。

「実は理系は苦手なんです。でも建築を学ぶという目標に向かって、とにかく必死に勉強しました。大学入学当初は、建築Ⅱ設計というイメージが強く、将来は設計士になるつもりでした」

建物の設計を夢見ていた岩崎だが、その進路を大きく変える出来事があった。

「大学三年生の授業で、初めてオフィスビルの建設現場を見学した時のことです。現場に足を踏み入れた瞬間、ブワッと全身に鳥肌が立ちました。スケールの大きさ、大勢の職人さんが働いている姿、重機の音は、授業で見た施工管理のビデオとは全く違いました。直感的に私の進路はこれだと感じましたね」

現場を目の当たりにしたことで、ものづくりに夢中になっていた幼少期の記憶がよみがえり、現場で働くことを意識するようになった。

憧れの所長の背中を追って

二〇一一年（平成二十三年）年、岩崎は㈱長谷工コーポレーションに入社する。

「内定をいただく前に、早坂淳子所長とお話をする機会を設けてくださり、早坂所長に出会いました。女性の所長がいることが心強く一緒に働きたいと思いました」

女性の現場監督が少ない時代に、結婚、出産というライフイベントを経験しつつも現場で働き続けている早坂所長に憧れ、自然と背中を追うようになっていった。

「早坂所長みたいになりたいです！」
入社二年目で配属された現場で当時の所長に「今後どうしていきたいんだ？」と問われた岩崎は迷わずこう即答した。

「言った後はびしびし指導してもらいました。特に『伝書鳩になるな』と何度も怒られましたね。自分の考えがないと職人さんが言ったことを、そのまま上司に報告するだけになってしまふ。それだったら誰にでもできちゃうんです。図面の見方や、数字の意味を考えるとところからはじまり、現場監督がすべきことは何かを所長に教えていただきました。当時の経験が今の自分の糧になっています」





日々状況が変化する現場を毎日確認してまわり、最後は屋上から全体を見渡す。何か気づいた点があればすぐに指示を出すことを心掛けている。

（株）長谷工コーポレーションでは十年以上の現場経験を積んでから次席を勤めることが多く、岩崎は次席としては「ずいぶん若い。それだけ、今までの現場での姿勢が評価され、活躍が期待されている。」

「この人事を知らされた時は、まだ経験も浅いの自分の判断で物事が動いていく責任の重さに耐えられるか不安でした。でも職人さんにとって入社年数は関係ありません。次席は次席なので気を引き締めて職務を果たしています。そうは言っても、経験がないことに直面することもあるので、毎日が必死ですね」

朝礼後に岩崎は、一階から順に現場を見てまわり最後は最上階から全体を見渡す。

「建物は職人さんが働いてくれることで出ていきます。だからこそ安全で働きやすい環境をつくるのが大切。毎朝、現場に危険がないか自分の目で必ず確認します」

効率を上げるだけでなく、現場とは何か、本当に働きやすい環境とは何か、という根本を考え、広い視野でものごとを見ることが次席の重要な仕事だと岩崎は語る。

「工事担当者の時は自分の担当工種に集中していたんですが、次席になって現場をつくっていくという意識が芽生えました。次席は全体を俯瞰して見ないと現場が成り立たないんです。良い現場はみんな仲良くだけではなく、言う時は厳しく言い節々でびしっと締まっているもの」



女性専用の休憩室。「温泉旅館のパウダースペースをイメージして自分でレイアウトをしました。女性の職人さんも使ってくれています」（岩崎）

「先を読み、信頼関係を築き、現場をつくる。それが次席の仕事」

私の仲間
komachi's point



上／浦和駒場しらかばとチームのメンバーのみなさん。左官や墨出し工の女性職人もいる。
下／休憩中の職人さんとのコミュニケーションも欠かさず、現場の雰囲気はとても和やかだ。

大きな目標がある岩崎だからこそ、所長は期待を込めて厳しく指導をした。

屋上から現場全体を見渡す

今年で六年目の岩崎は現在、憧れの早坂所長がいる現場で次席を任せられている。

この建物は事業企画、開発推進、設計、施工、販売、インテリア内装、管理まで女性を中心となり携わっている。現場では、けんせつ小町工事チームにも登録している「浦和駒場しらかばとチーム」が、「魅せる現場」を目指して日々奮闘中だ。

komachi MEMO

「今の現場は女性職員だけなので初めて来る職人さんがいつもびっくりするんです。若い子には遠慮がちになっちゃって。女性だからって遠慮しないで言う時はびしっと言ってほしいです(笑)」



profile

いわさき・ゆか◎1988(昭和63)年、東京都生まれ。都市環境学部都市環境学科建築都市コースを卒業後、2011年4月に㈱長谷工コーポレーション入社。今までに4つの大規模マンションの現場で経験を積む。2015年11月よりHC大成有楽浦和駒場計画新築工事に次席として着任し現在に至る。

「現場での人望がとても厚いですね。職人さんも職員も岩崎にしっかりついて来ているので、安心して現場を任せられます」(早坂所長・右)

だと思えます」

後輩たちの目標になっていきたい

岩崎の目標は早坂所長のようになることだが、その前にやらなければならないことがあると言

う。
「早坂所長は私にとっても大きい存在なので、社歴の浅い若い社員にとっては雲の上の人のような存在だと思うんです。だから若いうちから次席を任せてもらえた私が、そういった後輩たちの目標というかモデルになって『所長になりたい』と思うきっかけをつくりたいんです。『私にも出来るんだ』とそう思っただけなんです」
社内に女性の現場監督が増えてきている現状から、後輩社員の次のステップを既に考えている。

「社内の女性現場監督のうち、次席をしているのは私一人だけなんです。だから次席になる後輩が続いてほしいと思っています」

苦笑いしながら岩崎はこうも話す。

「二三年目の時は担当のことではいっぱいっ
ぱいだし、職人さんや協力会社さんと真剣に意見を出し合っている次席を見て圧倒されたこと
もあったんですけどね」

自分の目標に進みながらも後輩を想い、指導の仕方にまで考えをめぐらす岩崎は、若い次席というところを感じさせない強い意志、広い視野を持つけんせつ小町であった。